

4. 各処理方式の詳細

4.1 インタラクティブ処理方式（パソコン用パッケージソフトを使用）

4.1.1 処理方式概要

NACCS におけるインタラクティブ処理方式(パソコン用パッケージソフトを使用)の概要を、
図 4-1-1 に示す。

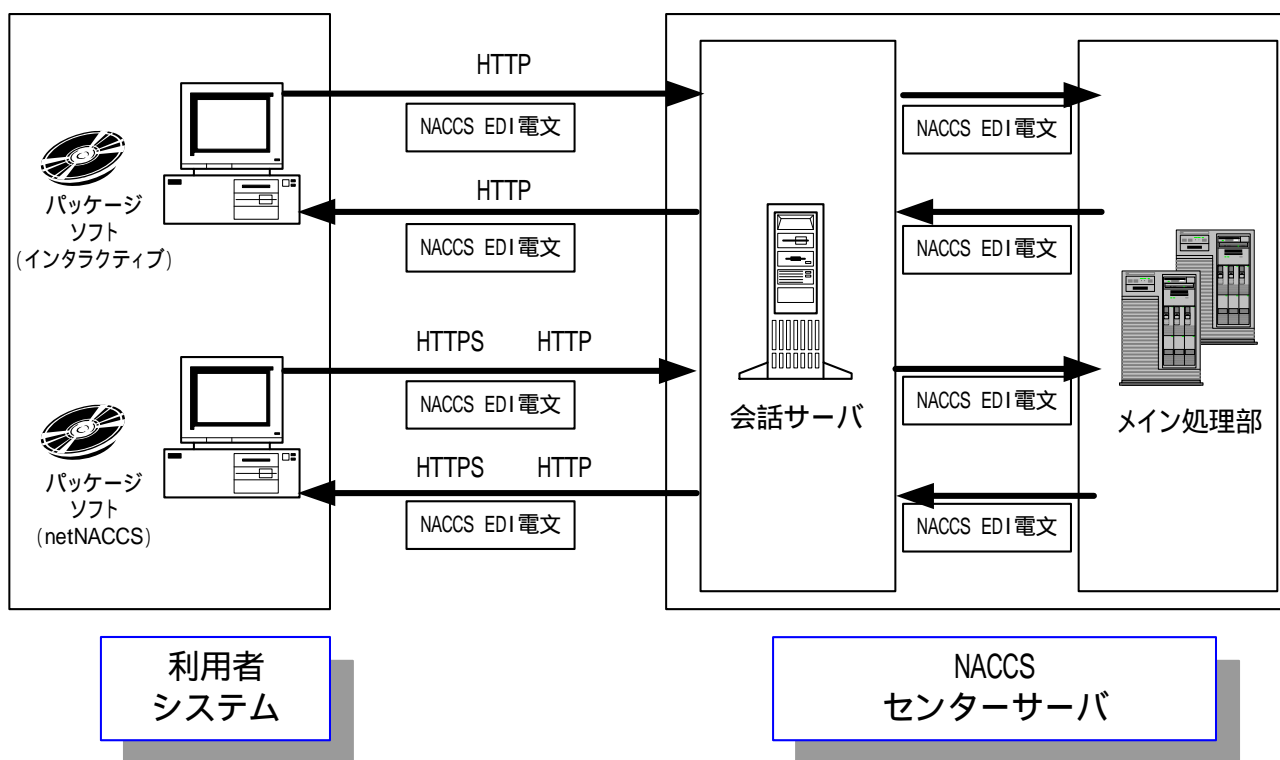


図 4-1-1 インタラクティブ処理方式（パソコン用パッケージソフトを使用）の処理方式概要

利用者は、業務において必要とされる項目をパソコン用パッケージソフト（パッケージソフト インタラクティブ処理方式またはパッケージソフト netNACCS 処理方式）の業務画面に入力し、NACCS センターサーバに送信する。

メイン処理部では、送信された処理要求電文に基づき業務処理を行った後、利用者に対して処理結果電文が返却される。利用者は、パソコン用パッケージソフト（パッケージソフト インタラクティブ処理方式またはパッケージソフト netNACCS 処理方式）の業務画面にて処理結果を確認する。

4.1.2 通信プロトコルの詳細

(1) NACCS ネットワークの場合

NACCS におけるインタラクティブ処理方式(パッケージソフト インタラクティブ処理方式を使用)の通信プロトコルには、ネットワーク・トランスポート層に TCP/IP、その上位層には HTTP を採用する。ただし、本処理方式の通信制御は、すべてパソコン用パッケージソフト(パッケージソフト インタラクティブ処理方式)が行うため、利用者は通信プロトコルを意識する必要はない。

(2) インターネットの場合

NACCS におけるインタラクティブ処理方式(パッケージソフト netNACCS 処理方式を使用)の通信プロトコルには、ネットワーク・トランスポート層に TCP/IP、その上位層には HTTPS を採用する。(注)ただし、本処理方式の通信制御は、すべてパソコン用パッケージソフト(パッケージソフト netNACCS 処理方式)が行うため、利用者は通信プロトコルを意識する必要はない。

(注) パッケージソフト～認証サービスまでは HTTPS、認証サービス～会話サーバまでは HTTP となる。

4.1.3 業務処理シーケンス

インタラクティブ処理方式（パソコン用パッケージソフトを使用）における業務処理シーケンスを、図 4-1-2以降に示す（旧 NACCS について図 4-1-2～図 4-1-3、本システムについて図 4-1-4～図 4-1-10）。なお電文についての詳細は、「第3章 電文方式と構造」を参照のこと。

4.1.3.1 旧 NACCS における INQ 型電文の場合の業務処理シーケンス例

(1) パッケージソフト インタラクティブ処理方式を使用した場合

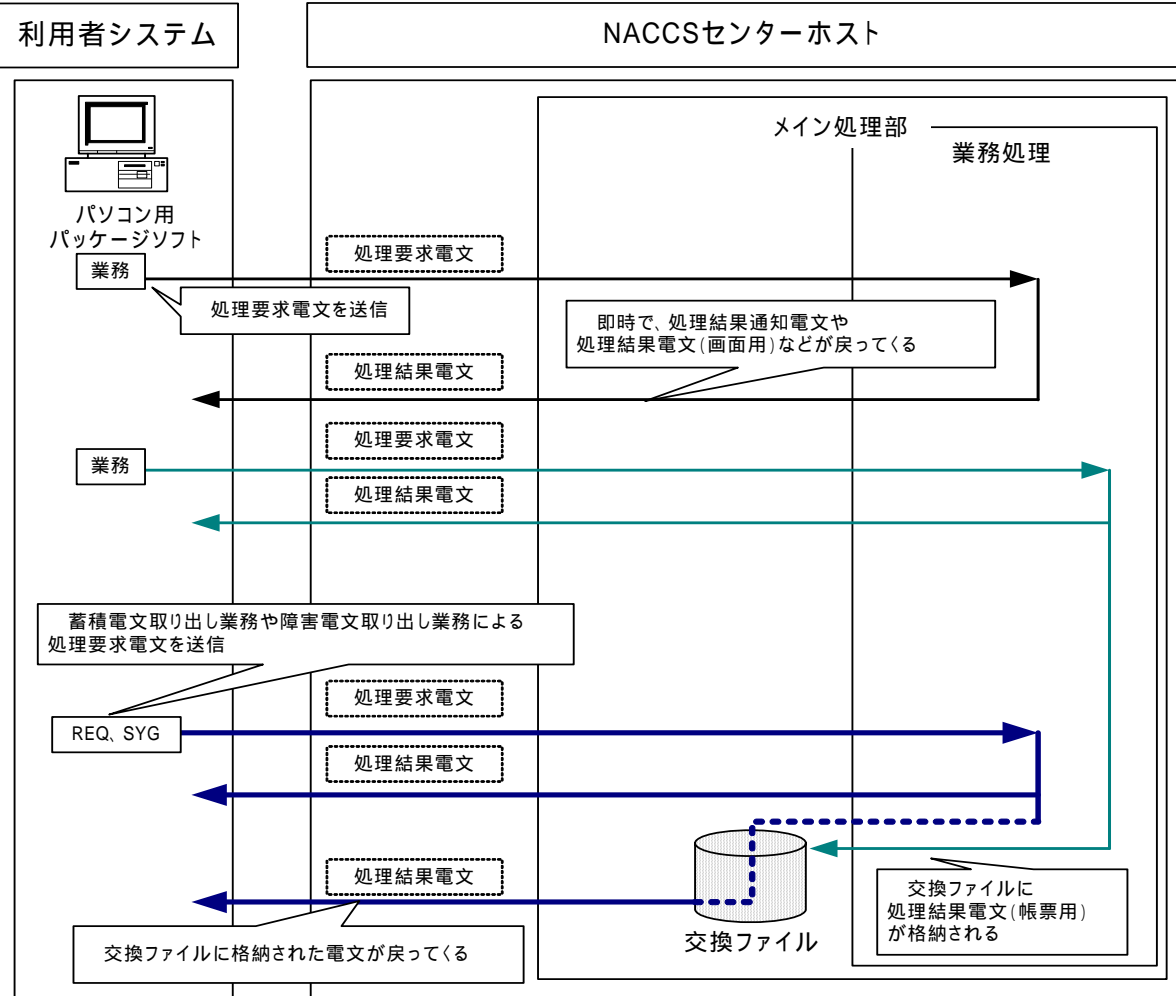


図 4-1-2 旧 NACCS の業務処理例（パッケージソフト インタラクティブ処理方式）

利用者は、業務において必要とされる項目をパッケージソフト インタラクティブ処理方式の業務画面に入力し、センターホストに送信する。

メイン処理部では、送信された処理要求電文に基づき業務処理を行う。インタラクティブ処理方式（パソコン用パッケージソフトを使用）では、処理結果電文がほぼ即時で利用者に戻ってくる。

センターホスト内の交換ファイルに処理結果電文が格納されることがある。

交換ファイルに格納された処理結果電文は、蓄積電文取り出し業務（REQ）や障害電文取り出し業務（SYG）を送信することで、取り出すことができる。

取り出し業務を行うと、利用者の元へ交換ファイルに格納された電文が送信される。

(2) パッケージソフト netNACCS 処理方式を使用した場合

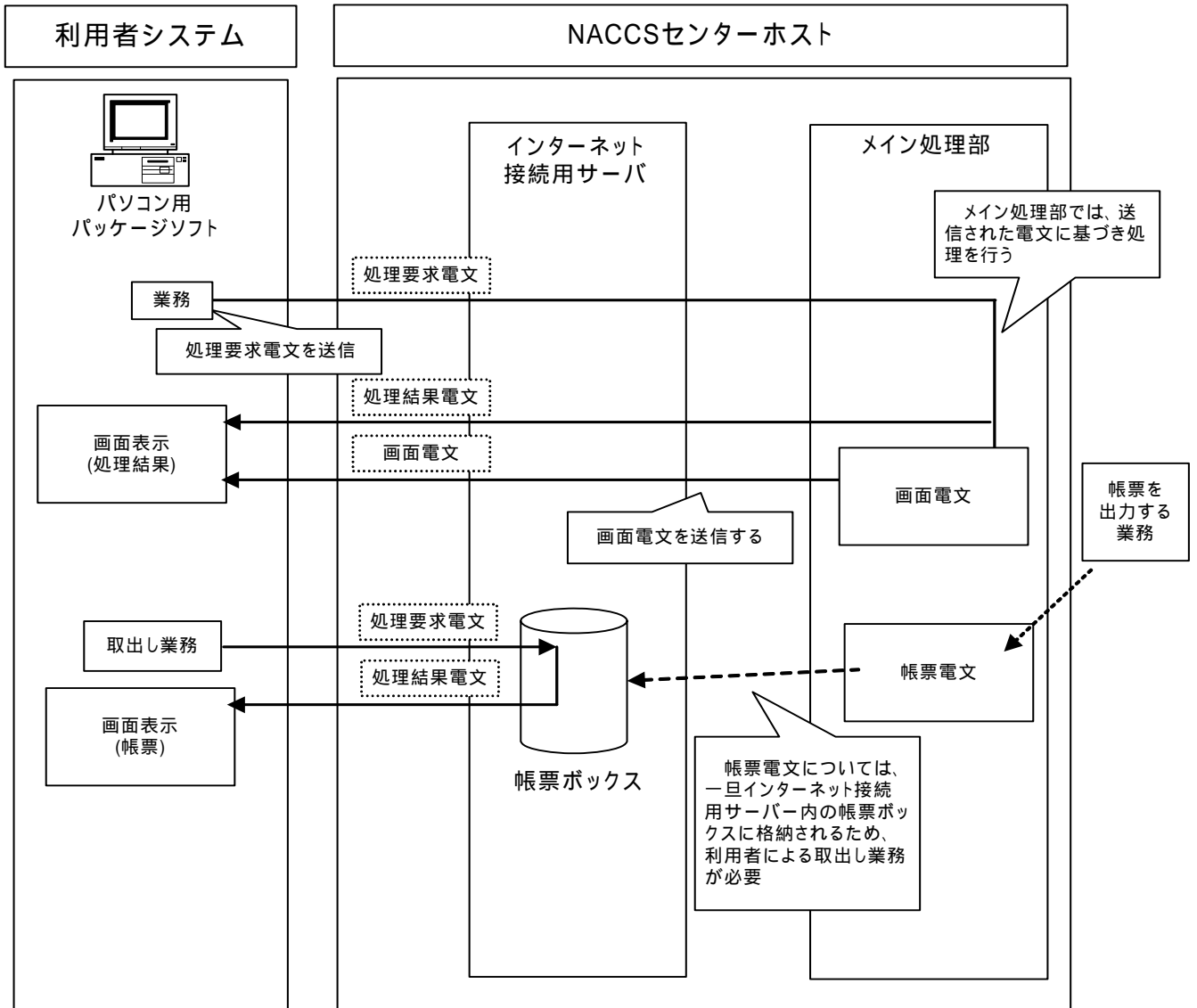


図 4-1-3 旧 NACCS の業務処理例 (パッケージソフト netNACCS 処理方式)

利用者は、業務において必要とされる項目をパッケージソフト netNACCS 処理方式の業務画面に入力し、インターネット接続用サーバを経由してセンターホストに送信する。

メイン処理部では、送信された処理要求電文に基づき業務処理を行う。

処理結果電文(画面用)については、直ちに利用者パソコンに送信される。

処理結果電文(帳票用)については、一旦インターネット接続用サーバ内の帳票ボックスに格納されるため、利用者による取出し業務で取出しを行う。

4.1.3.2 本システムにおける INQ 型電文の場合の業務処理シーケンス例

(1) 正常に処理される場合

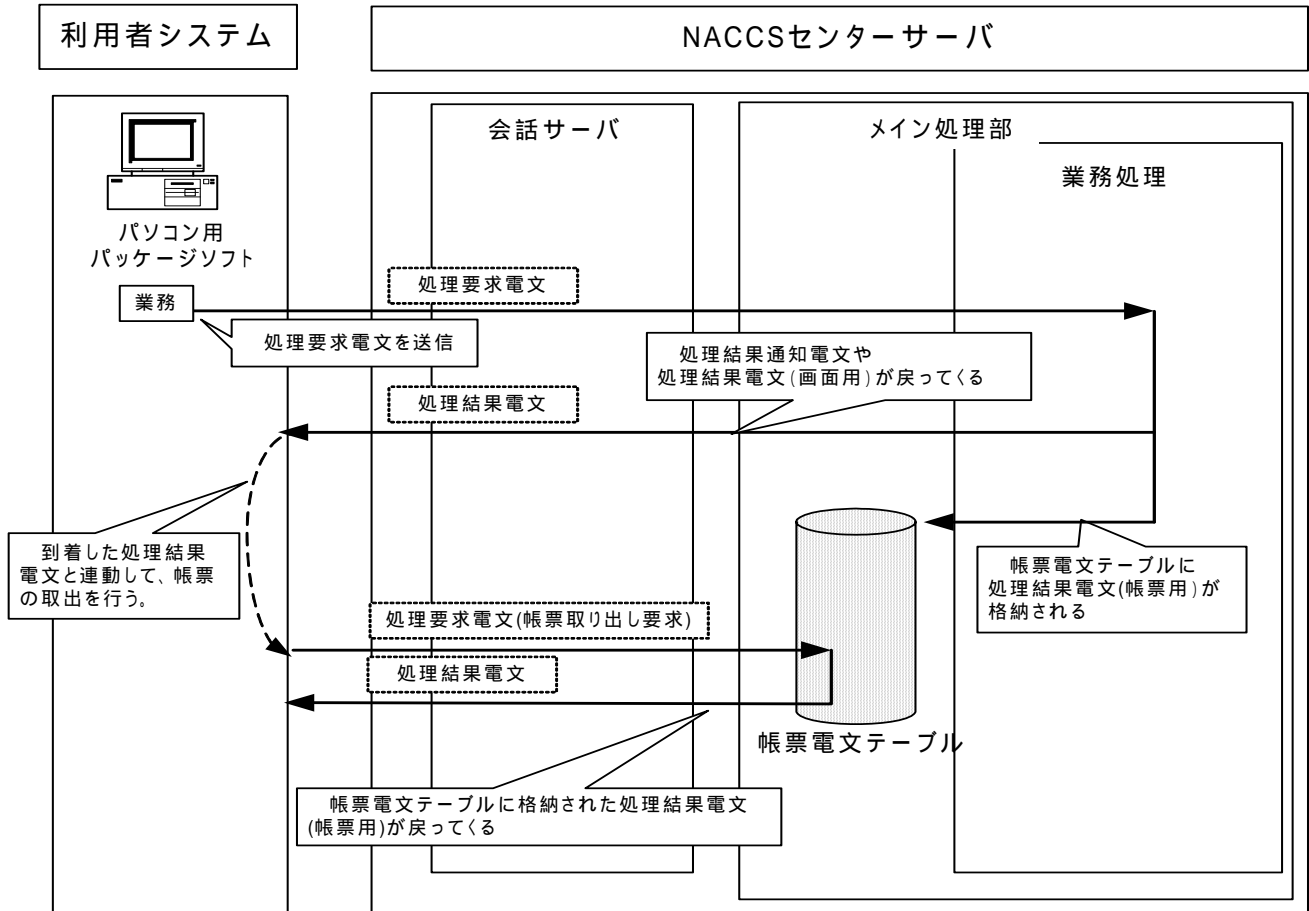


図 4-1-4 本システムの業務処理例 (INQ 型電文が正常処理される場合)

パソコン用パッケージソフト (パッケージソフト インタラクティブ処理方式またはパッケージソフト netNACCS 処理方式) から、処理要求電文を 1 件送信する。

センターサーバ内の帳票電文テーブルに処理結果電文 (帳票用) が格納される。帳票電文テーブルに格納される条件については、「4.1.4(1) 帳票電文テーブルについて」を参照のこと。

処理結果電文 (画面用) が、利用者に戻ってくる。

処理結果電文 (画面用) を受け取ったパッケージソフトは、以下のいずれかの方法により帳票電文テーブルから処理結果電文 (帳票用) を受信する。本例では、処理結果電文 (画面用) の受信と連動して、処理要求電文 (帳票取り出し要求) を発行している。

- ・ タイマーによる処理要求電文 (帳票取り出し要求) の発行
- ・ 手動による処理要求電文 (帳票取り出し要求) の発行
- ・ 処理結果電文 (画面用) の受信と連動した処理要求電文 (帳票取り出し要求) の発行

利用者側からの処理要求により、帳票電文テーブルに格納された処理結果電文 (帳票用) が、センターから送信される。

(2) 正常に処理されない場合

(A) 処理結果電文(画面用)を受信中に障害が発生した場合の例

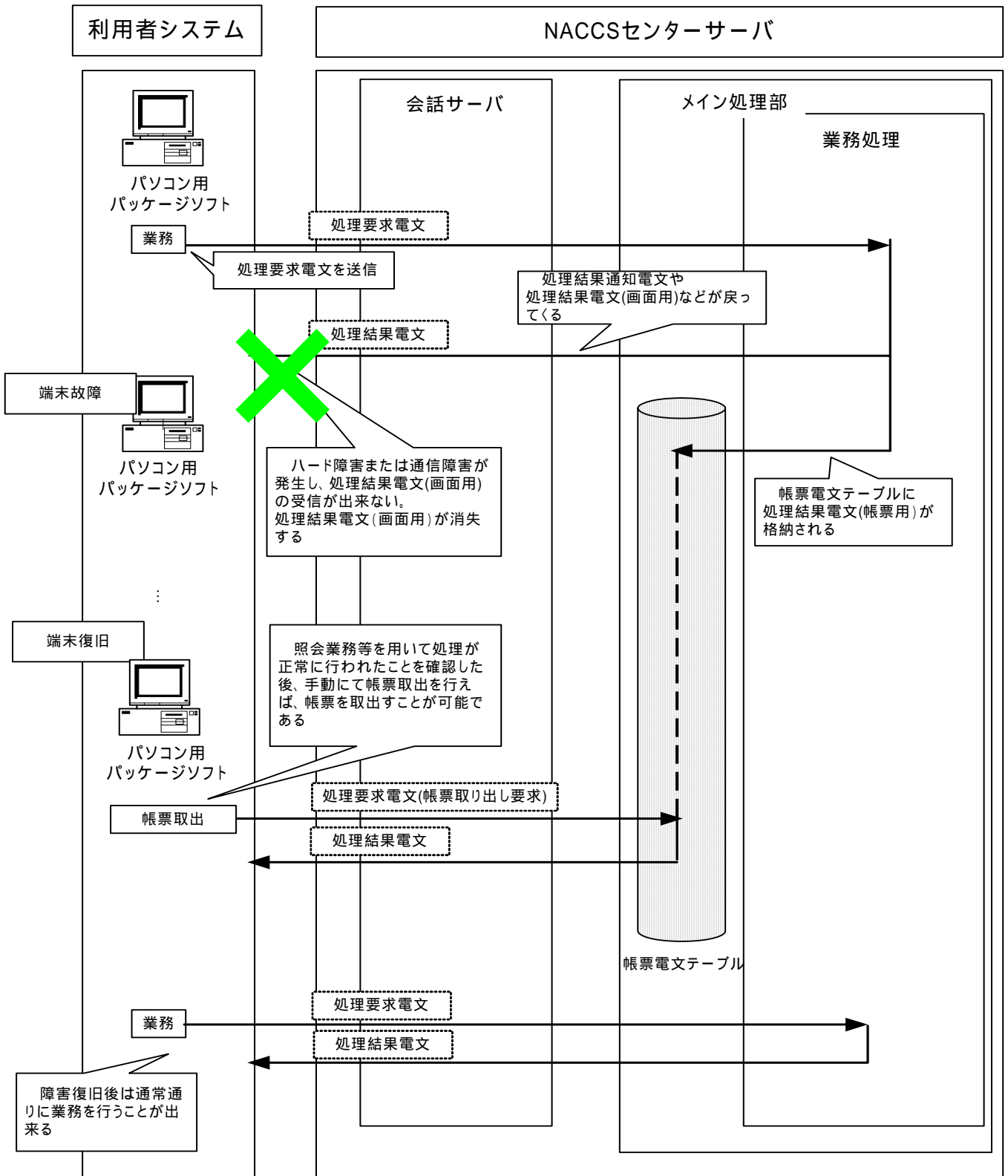


図 4-1-5 本システムの業務処理例 (INQ 型電文が正常処理されない場合)
: 処理結果電文(画面用)を受信中にエラー

パソコン用パッケージソフト（パッケージソフト インタラクティブ処理方式またはパッケージソフト netNACCS 処理方式）から、処理要求電文を1件送信する。

センターサーバ内の帳票電文テーブルに処理結果電文（帳票用）が格納される。帳票電文テーブルに格納される条件については、「4.1.4 (1)帳票電文テーブルについて」を参照のこと。

処理結果電文（画面用）が、利用者に戻ってくる。

ハード障害または通信障害が発生し、処理結果電文（画面用）の受信が出来ない。この場合、処理結果電文（画面用）が消失する。

障害が復旧した後、照会業務等を用いて、処理が正常に行われていることを確認後、パッケージソフトのメニューより、手動にて帳票取出を選択することで、帳票電文テーブルに格納された電文を取得することができる。

障害復旧後は、通常通り処理結果電文（画面用）受信と連動した処理要求電文（帳票取り出し要求）の送信や、通常業務電文の送信が可能である。

<p>! 利用者からの処理要求に対する処理結果電文（画面用）を利用者が受信中にハード障害または通信障害が発生した場合には、センターサーバで電文保障をしていないため、処理結果電文（画面用）の消失が発生する。（これは旧システムにおけるインタラクティブ処理方式や netNACCS 処理方式と同様である。）</p>

(B) 処理結果電文(画面用)を受信後に障害が発生した場合の例

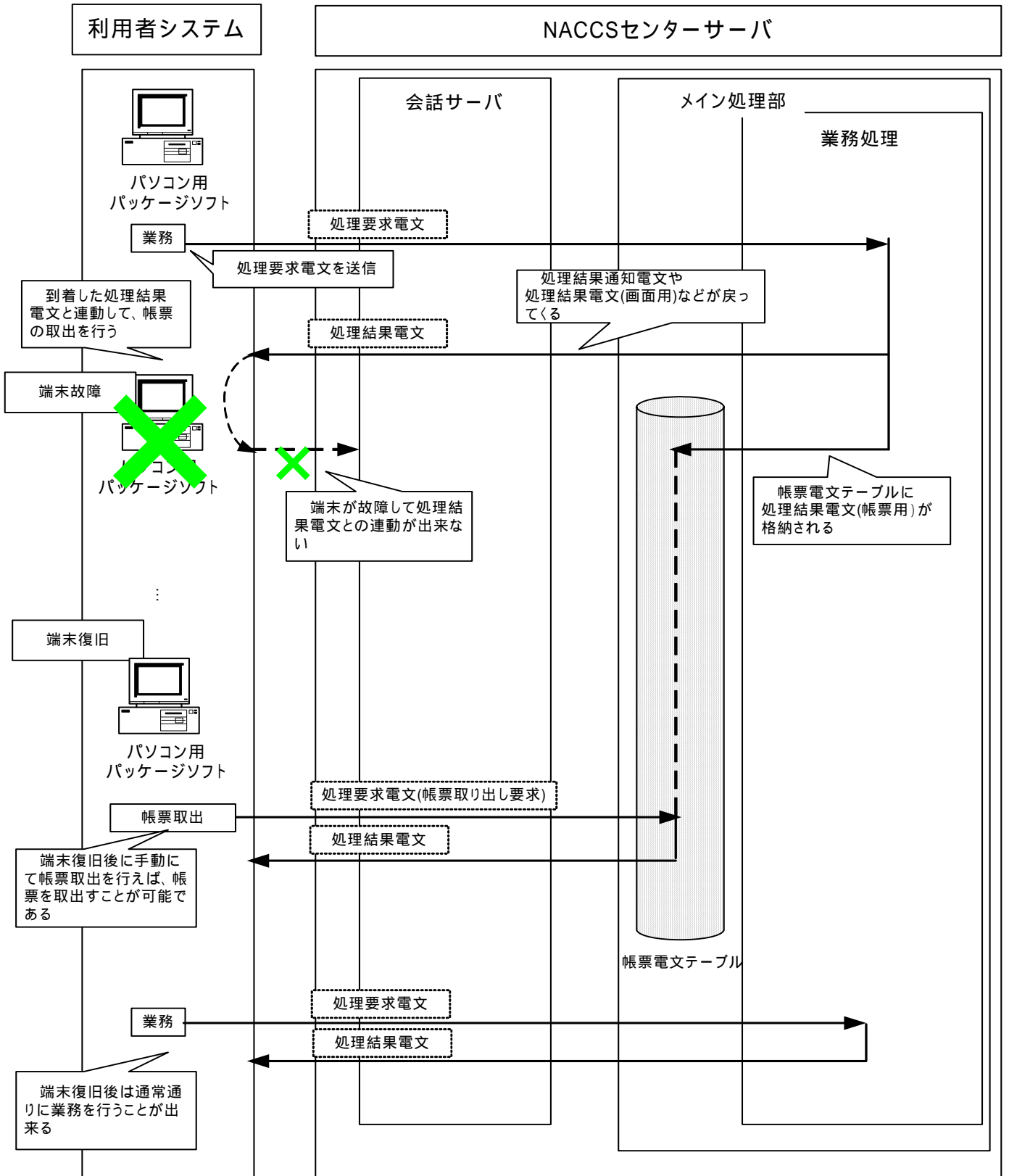


図 4-1-6 本システムの業務処理例 (INQ 型電文が正常処理されない場合)
: 処理結果電文(画面用)を受信後にエラー

パソコン用パッケージソフト（パッケージソフト インタラクティブ処理方式またはパッケージソフト netNACCS 処理方式）から、処理要求電文を1件送信する。

センターサーバ内の帳票電文テーブルに処理結果電文（帳票用）が格納される。帳票電文テーブルに格納される条件については、「4.1.4 (1)帳票電文テーブルについて」を参照のこと。

処理結果電文（画面用）が、利用者に戻ってくる。

処理結果電文を受け取ったパッケージソフトは、以下のいずれかの方法により帳票電文テーブルから処理結果電文（帳票用）を受信する。本例では、処理結果電文（画面用）の受信と連動して、処理要求電文（帳票取り出し要求）を発行している。

- ・ タイマーによる処理要求電文（帳票取り出し要求）の発行
- ・ 手動による処理要求電文（帳票取り出し要求）の発行
- ・ 処理結果電文（画面用）の受信と連動した処理要求電文（帳票取り出し要求）の発行

端末の故障により電文の送信ができなくなり、処理結果電文（画面用）との連動の処理が停止する。

その後、端末が復旧した後、パッケージソフトのメニューより、手動にて帳票取出を選択することで、帳票電文テーブルに格納された電文を取得することができる。

端末復旧後は、通常通り処理結果電文（画面用）受信と連動した処理要求電文（帳票取り出し要求）の送信や、通常業務電文の送信が可能である。

! 本システムは、パソコン用パッケージソフトに対してセンター側から即時に処理結果電文（帳票用）を送信しない方式であるため、旧システムにおいて送信障害となった処理結果電文（帳票用）を取り出す際に使用していた SYG 業務は不要となる。

4.1.3.3 本システムにおける EXC 型電文の場合の業務処理シーケンス例

(1) EXC 型電文を論理端末名単位に取得する場合

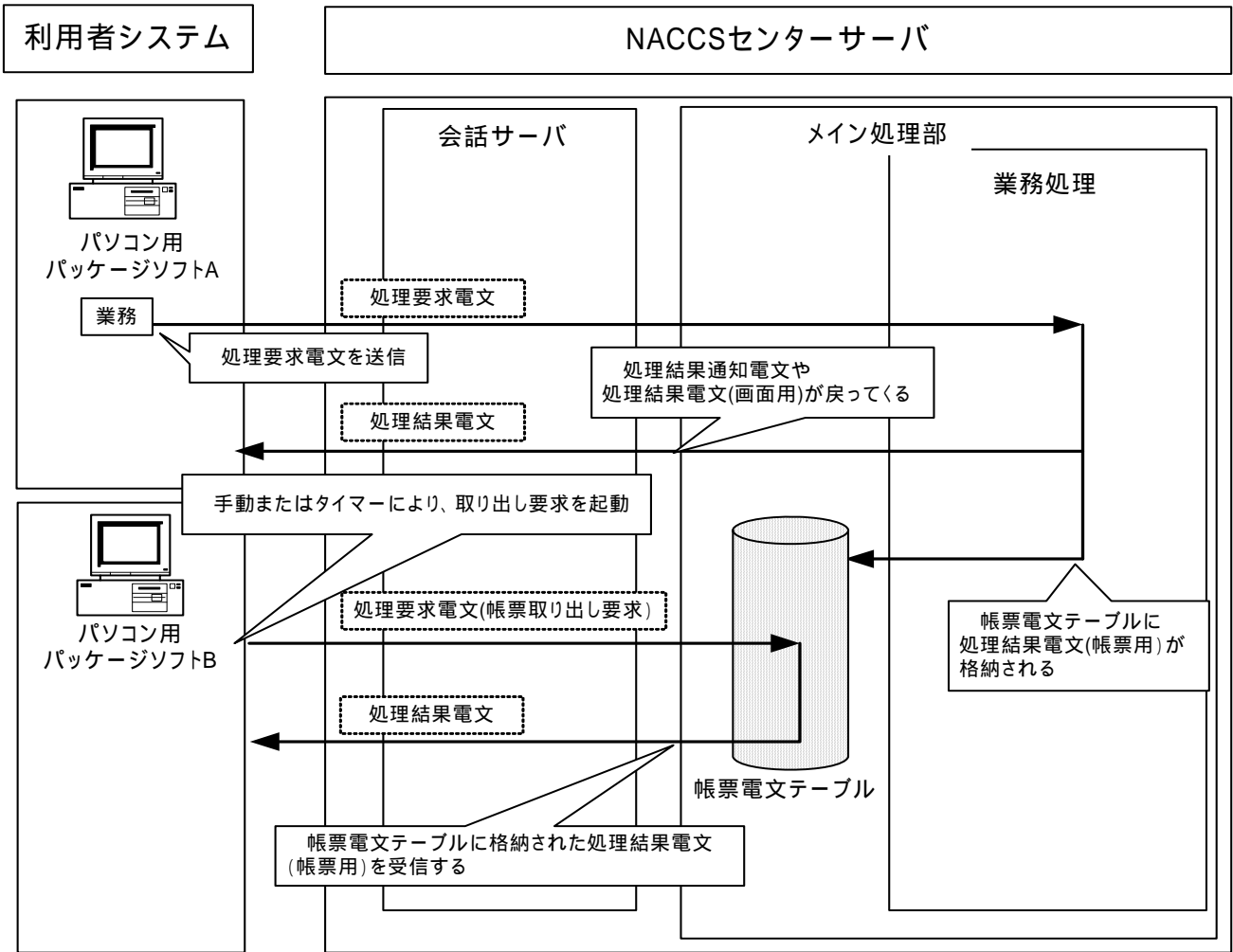


図 4-1-7 本システムの業務処理例 (EXC 型電文を論理端末名単位に取得する場合)

パソコン用パッケージソフト A (パッケージソフト インタラクティブ処理方式またはパッケージソフト netNACCS 処理方式) から、処理要求電文を 1 件送信する。

インタラクティブ処理方式 A (パソコン用パッケージソフトを使用) では、処理結果電文 (画面用) が、利用者に戻ってくる。

センターサーバ内の帳票電文テーブルに処理結果電文 (帳票用) が格納される。帳票電文テーブルに格納される条件については、「4.1.4 (1) 帳票電文テーブルについて」を参照のこと。

パソコン用パッケージソフト B (パッケージソフト インタラクティブ処理方式またはパッケージソフト netNACCS 処理方式) は、手動またはタイマーにより、処理要求電文 (帳票取り出し要求) をセンターサーバに向けて送信する。

パソコン用パッケージソフト B 利用者向けの処理結果電文 (帳票用) が帳票電文テーブルに存在していた場合、その処理結果電文を取り出すことができる。

(2) EXC 型電文を利用者コード単位に取得する場合

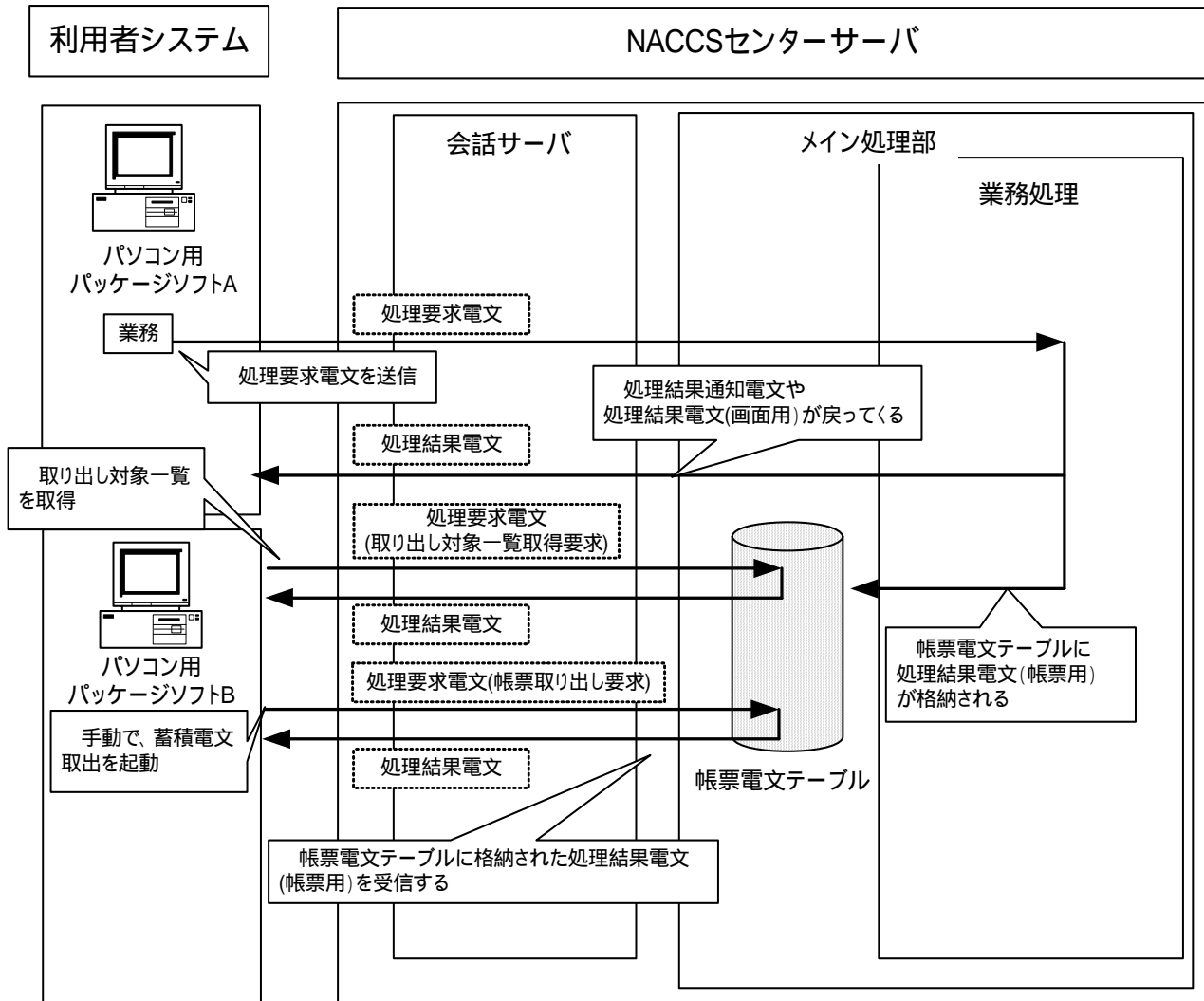


図 4-1-8 本システムの業務処理例 (EXC 型電文を利用者コード単位に取得する場合)
: 蓄積電文取出を起動

パソコン用パッケージソフト A (パッケージソフト インタラクティブ処理方式またはパッケージソフト netNACCS 処理方式) から、処理要求電文を 1 件送信する。

インタラクティブ処理方式 A (パソコン用パッケージソフトを使用) では、処理結果電文 (画面用) が、利用者に戻ってくる。

センターサーバ内の帳票電文テーブルに処理結果電文 (帳票用) が格納される。帳票電文テーブルに格納される条件については、「4.1.4 (1) 帳票電文テーブルについて」を参照のこと。

パソコン用パッケージソフト B (パッケージソフト インタラクティブ処理方式またはパッケージソフト netNACCS 処理方式) は、取出対象の一覧を取得する。

取得した取出対象一覧より希望の帳票を選択し、蓄積電文取出を行う。

パソコン用パッケージソフト B 利用者向けの処理結果電文 (帳票用) が帳票電文テーブルに存在していた場合、その処理結果電文を取り出すことができる。

4.1.3.4 本システムにおける EXZ 型電文の場合の業務処理シーケンス例

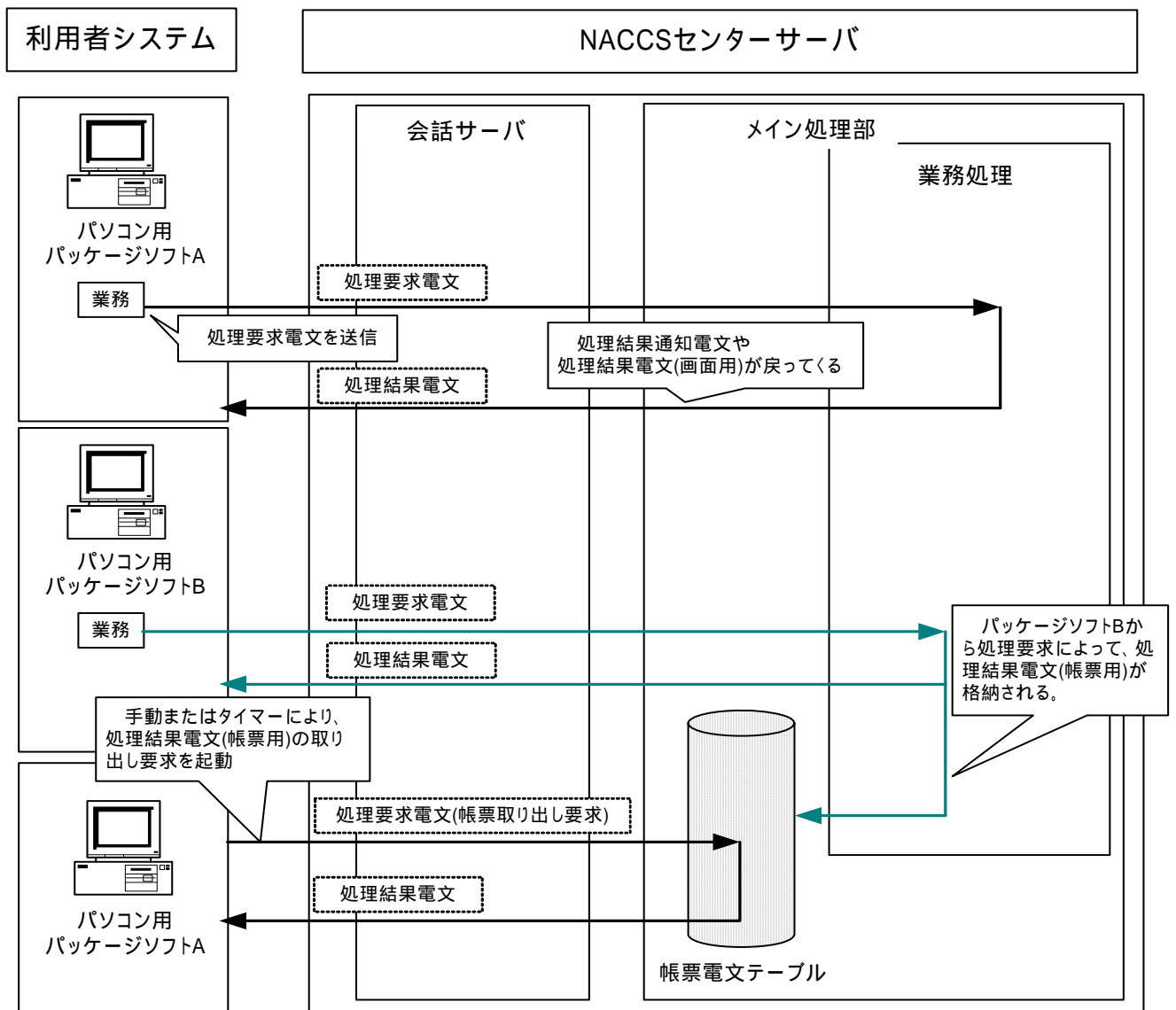


図 4-1-9 本システムの業務処理例 (EXZ 型電文の場合)

パソコン用パッケージソフト A (パッケージソフト インタラクティブ処理方式またはパッケージソフト netNACCS 処理方式) から、処理要求電文を 1 件送信する。

インタラクティブ処理方式 A (パソコン用パッケージソフトを使用) では、処理結果電文 (画面用) が、利用者に戻ってくる。

インタラクティブ処理方式 B (パソコン用パッケージソフトを使用) が業務を行い、帳票電文テーブルに処理結果電文 (帳票用) が格納される。

パソコン用パッケージソフト A (パッケージソフト インタラクティブ処理方式またはパッケージソフト netNACCS 処理方式) は、手動またはタイマーにより、処理要求電文 (帳票取り出し要求) をセンターサーバに向けて送信し、その処理結果電文を取得する。

4.1.3.5 本システムにおける添付ファイル電文の場合の業務処理シーケンス例

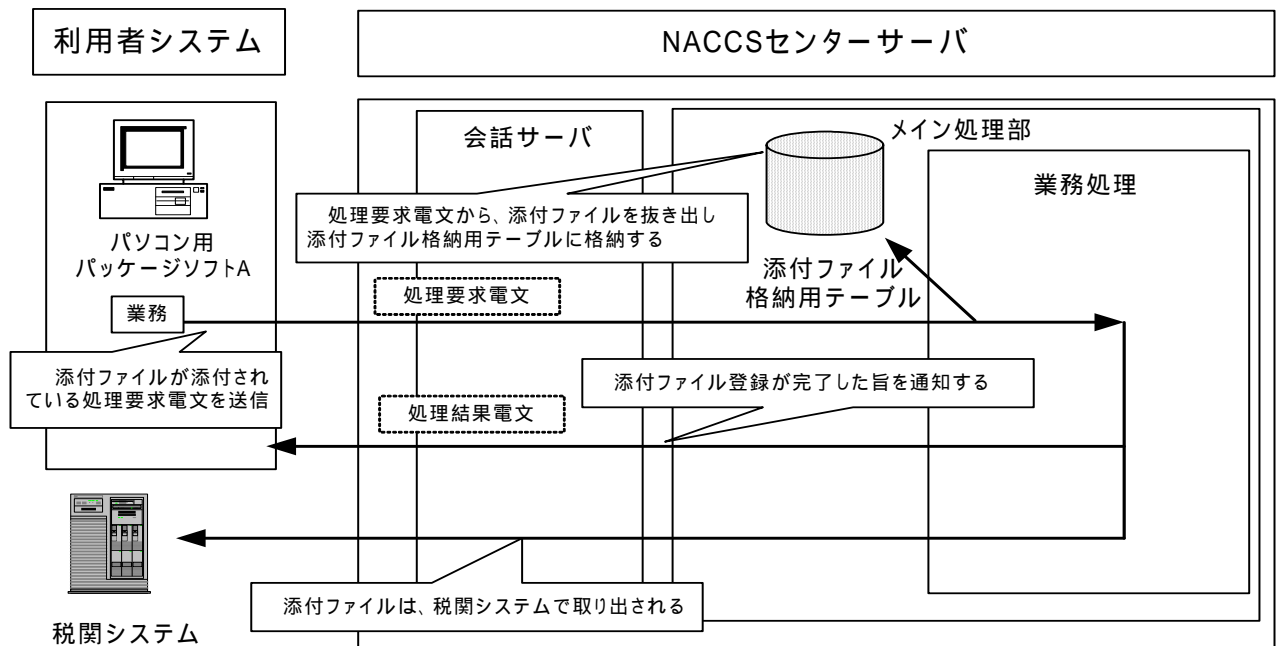


図 4-1-10 本システムの業務処理例（添付ファイル電文の場合）

パソコン用パッケージソフト A (パッケージソフト インタラクティブ処理方式またはパッケージソフト netNACCS 処理方式) から、処理要求電文(添付ファイル登録業務)を 1 件送信する。

センター側は受け取った処理要求電文から、添付ファイルデータを切り出し添付ファイル格納用テーブルに格納する。

パソコン用パッケージソフト A (パッケージソフト インタラクティブ処理方式またはパッケージソフト netNACCS 処理方式) には、添付ファイル格納完了の旨の処理結果電文 (画面用) が返却される。

格納した添付ファイルは、税関システムによって取り出される。

4.1.4 その他

(1) 帳票電文テーブルについて

帳票電文テーブルとは、インタラクティブ処理方式(パソコン用パッケージソフトを使用)にのみ存在し、電文種別が帳票用[P]、[A]、社内インターフェース用[T]または蓄積用[U]の処理結果電文(帳票用)が一時的に格納されるテーブルのことを示す。

このテーブルに格納された処理結果電文(帳票用)の取り出し方法は以下の2つがある。

処理結果電文(帳票用)を論理端末名単位に取り出す方法

処理結果電文(帳票用)を論理端末名単位に取り出す際は、パッケージソフトに搭載された以下の機能のいずれかを用いる。

- ・タイマーによる処理要求電文(帳票取り出し要求)の発行
- ・手動による処理要求電文(帳票取り出し要求)の発行
- ・処理結果電文(画面用)の受信と連動した処理要求電文(帳票取り出し要求)の発行

処理結果電文(帳票用)を利用者コード単位に取り出す方法

処理結果電文(帳票用)を利用者コード単位に取り出す際は、蓄積電文取出を用いる。

(2) 帳票電文テーブルに格納された処理結果電文(帳票用)の保存期間

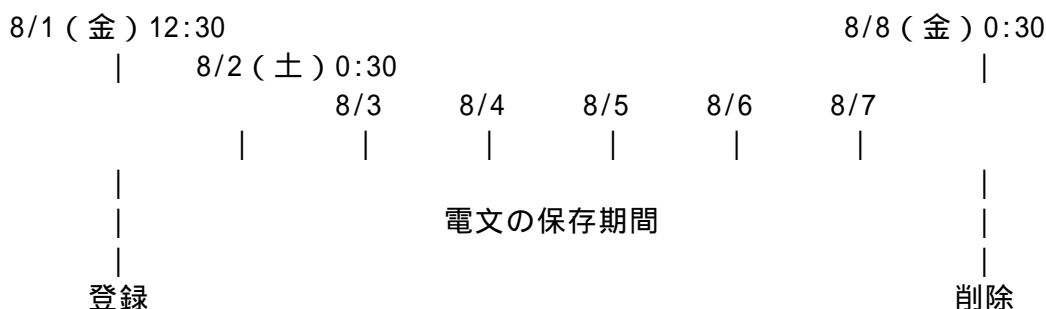
帳票電文テーブル内の処理結果電文(帳票用)については、利用者は速やかに取り出しを行わなければならない。電文は、利用者が取り出しを行った後に帳票電文テーブル内から削除される。

ただし、利用者が取り出していない処理結果電文(帳票用)については、帳票電文テーブルに登録された日を含めて、7日間(土日祝日を含む)は電文を帳票電文テーブル内に保存する。電文の削除は深夜の一定時刻に行われる。

なお、ゴールデンウィーク、年末年始においては、旧システムと同様に NACCS センターで別途保存期間の設定変更を行う。

(参考) 帳票電文テーブルに格納された処理結果電文(帳票用)の削除例

(仮に一定時刻を午前 0:30 とした場合)



(3) 添付ファイル格納テーブルに格納された添付ファイルの保存期間

添付ファイル登録(MSB)業務の場合

- a. 添付ファイル情報が登録された場合に削除対象とし、保存期間は登録日を含めて4日間とする。

汎用申請(HYS)業務の場合

- a. 汎用申請審査終了(CHY)業務で「許可・承認等」または「不許可・不承認等」の旨の登録を行った場合、または「事前教示照会結果通知(CHZ)」業務を行った場合に削除対象とし、保存期間は登録日を含めて6日間とする。
- b. 汎用申請手数料納付番号通知(HIG)業務にて「不許可・不承認等」の旨の登録を行った場合に削除対象とし、保存期間は登録日を含めて6日間とする。
- c. 汎用申請審査終了(CHY)、汎用申請手数料納付番号通知(HIG)または、汎用申請手数料納付番号通知変更(HII)業務にて「撤回」を登録した場合に削除対象とし、保存期間は登録日を含めて4日間とする。
- d. 手数料情報登録(RP1)業務が起動された場合に削除対象とし、保存期間は支払期限日を含めて4日間とする。
- e. 手数料領収確認(RP2)業務が起動された場合、または手数料強制消込(RPF)業務を行った場合に削除対象とし、保存期間は手数料が納付された旨が登録された日を含めて6日間とする。
- f. 汎用申請変更(HYE)または汎用申請手数料納付登録変更(RPE)業務で変更を行った場合に、旧レコード(変更直前の添付ファイル取得キー)を削除対象とし、保存期間は変更を行った日を含めて4日間とする。
- g. 汎用申請(HYS)業務がエラー終了した場合は、ただちに当該添付ファイルを削除する。

船舶・航空機資格変更届(KPC01)業務の場合

- a. 船舶・航空機資格変更届審査終了(KPE01)業務で「システム交付」の旨の登録を行った場合に削除対象とし、保存期間は登録日を含めて6日間とする。
- b. 船舶・航空機資格変更届(KPC01)業務にて「訂正」を登録した場合でかつ新しい届出とリンクしなかった場合に削除対象とし、保存期間は登録日を含めて4日間とする。
- c. 船舶・航空機資格変更届(KPC01)業務にて「取消」を登録した場合に削除対象とし、保存期間は登録日を含めて4日間とする。

(注) 保存日数は日曜・祝日を除く日数とする。

(4) その他の注意事項

システムの高負荷時には、全利用者からの処理要求電文の受信を停止する等の運用制限をかける場合がある。この場合、NACCSセンターから利用者に対し電話、FAX等により連絡を行う。

他端末が障害の場合にその端末向けの帳票を取り出す機能をパッケージソフトに搭載する。その場合のシーケンスを図 4-1-11に示す。

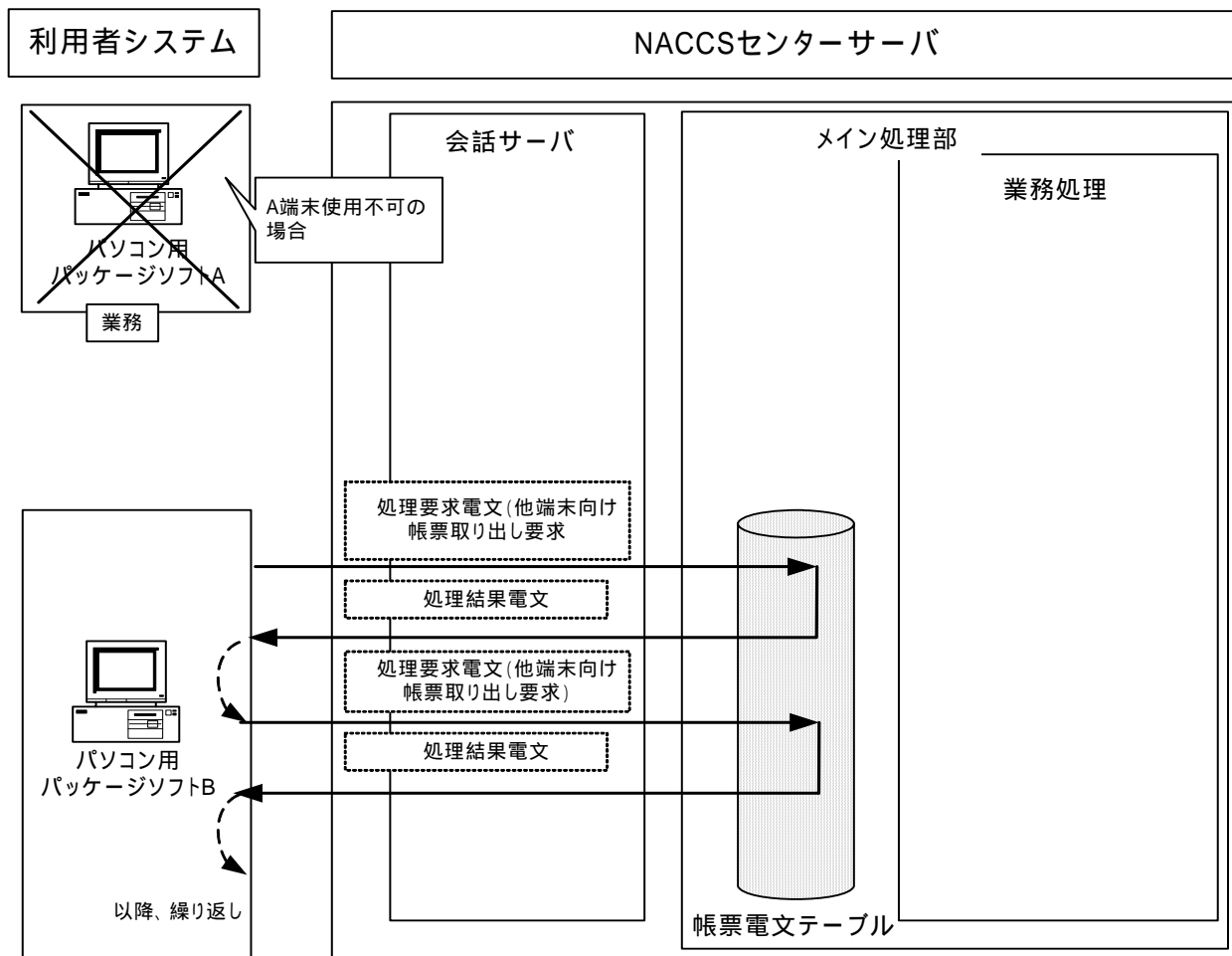


図 4-1-11 インタラクティブ処理方式（パソコン用パッケージソフトを使用）の処理例
： 端末が使用不可の際の他端末からの処理結果電文（帳票用）取出しの場合

パソコン用パッケージソフト B（パッケージソフト インタラクティブ処理方式またはパッケージソフト netNACCS 処理方式）において、パソコン用パッケージソフト A 向けにセンターサーバの帳票電文テーブルに格納されている処理結果電文（帳票用）を取得するため、端末アクセスキーを入力し、手動で処理要求電文（他端末向け帳票取り出し要求）を送信する。

会話サーバは、入力された端末アクセスキーに対する処理結果電文データを帳票電文テーブルから取得しパソコン用パッケージソフト B に送信する。

パソコン用パッケージソフト B は、次の処理結果電文（帳票用）を取得するため、 の処理結果電文と連動して、他端末向け帳票取出しをセンター側へ送信する。

帳票電文テーブルに処理結果電文（帳票用）が存在していれば、パソコン用パッケージソフト B に対して電文の送信を行う。

以降、帳票電文テーブルからパソコン用パッケージソフト A 向けの処理結果電文（帳票用）が無くなるまで、 を繰り返す。

! 端末アクセスキーとは？

端末アクセスキーとは、NACCSセンターが1論理端末に対して1:1で発給し、管理、運用を行う16桁のランダムな英数字である。センターサーバは論理端末と端末アクセスキーで端末を特定するため、他端末の端末アクセスキーを用いて他端末向けの処理結果電文（帳票用）を取得することができる。